

## トップニュース

製薬協総務部長

住田 高志

「第13回製薬協フォーラム」は、2012年11月27日(火)、経団連会館において、患者団体、国会議員、行政、関係団体、オピニオンリーダーおよび報道関係者など約400名の招待客の出席のもと開催されました。当フォーラムは、製薬協に関係する各界のリーダーと会員企業の代表者が一堂に会して意見交換を行うことを目的として毎年この時期に開催され、今回は、日本におけるグローバルヘルス活動の中心となって、多様なセクターとともにその推進に取り組んでいる、東京大学大学院の渋谷健司先生を招き、講演をお願いしました。

## 第一部 講演会

『グローバル化する保健医療』と題する講演の中で、2005年頃から「グローバルヘルス」という言葉が使われだし、またたく間に世界中に広まったこと、グローバルヘルスとは、国境を越える保健医療課題と訳されるが、それは、先進国と発展途上国間での双方向の連携および経験と知識の共有が必要であること等の説明がありました。

世界的な高齢化と疾病構造の変化により、優先課題が感染症から生活習慣病対策、そして皆保険制度構築へと変化しています。

わが国がグローバルヘルスに力を入れるべき理由は2つあります。まず、わが国が過去50年間に達成してきた「安価で質の良い医療へのアクセスを全国民

に保証する」ことがグローバルヘルスの中心課題となっていること、次に世界各国で「財源・医師不足、低収入の環境で、どのようによい医療を提供できるか」という課題に対するさまざまな試みがなされており、わが国が途上国のイノベーションから学ぶべきことは多々あります。

以上が講演の概要です。

製薬協は、革新的で有用性の高い医薬品の開発と製薬産業の健全な発展を通して、日本および世界の人々の健康と福祉の向上に貢献することを目指す研究開発志向型製薬企業の団体です。われわれは、グローバルヘルスにおける重要なステークホルダーであるとの認識のもと、いまだ満たされない医療ニーズの充足に積極的にチャレンジし、世界の人々に革



東京大学大学院国際保健政策学  
渋谷健司 教授

## 「第13回製薬協フォー



厚生労働省 原医政局長



日薬連 内藤会長の乾杯の発声により開宴



歓談



歓談風景



(写真左)製薬協 野木森副会長

新的で有用性の高い医薬品を提供することにより、グローバルヘルスの向上に貢献していくことを社会的使命として活動を展開しています。

### 第二部 懇談会

製薬協手代木会長の主催者挨拶に続き、厚生労働省を代表して原徳壽医政局長、日本医師会、日本薬

## ラム」懇談会 会場風景



の輪が広がる風景



製薬協 手代木会長の挨拶



製薬協 多田副会長の  
中締め挨拶



(写真右)製薬協 中山副会長



歓談する手代木会長と渋谷教授

剤師会、患者会代表の来賓挨拶の後、日本製薬団体連合会内藤晴夫会長の乾杯の発声で開宴となり、その後、多くの国会議員から製薬産業に対する期待と激励の言葉を頂戴しました。満員の会場は多くの参

加者の熱気が溢れ懇談の輪が会場一杯にひろがりました。終宴にあたっての多田副会長挨拶の後も名残りを惜しむ歓談が続き、大盛会のうちに第13回製薬協フォーラムは無事終了することができました。